

令和元年8月30日

自由民主党 和

代表 橋本 幸一

八代市議会自由民主党 和
管外行政視察復命書

視察期日：R1年8月21日（水）～R1年8月23日（金）

視察先： Jファーム（苫小牧市）

苫東ファーム（苫小牧市）

アド・ワン・ファーム（豊浦町）

中心市街地活性化事業（函館市）

参加者：議員 橋本 幸一



議員 中村 和美



議員 前川 祥子



議員 谷川 登



議員 高山 正夫



□令和元年8月21日(水) 北海道苫小牧市:(株)Jファーム訪問



□令和元年8月21日(水) 北海道苫小牧市:(株)苫東ファーム訪問



□令和元年8月22日(木) 北海道豊浦町:アド・ワン・ファーム訪問



□令和元年8月23日(金) 北海道苫函館市:中心市街地活性化事業について



※内容詳細は別添所見のとおり

議員名〔橋本 幸一〕

◆視察日：令和元年8月21日（水）

◆視察先：北海道苫小牧市

◆調査項目：（株）Jファームについて

現在国でも進めているスマート農業の一環として視察した。カ
(株)Jファームは、国内の2社の企業によるハウス施設のプラントの
実証栽培として、ベリーフ、ミニトマトを栽培している会社である
トトト5ha、ベリーフ1haをランタ型高度栽培制御シ
ステムで高設ベッドの水耕栽培で行なわれ、まさに生産工場
である。北海道で、企業による農業分野への進出の勢いが
感じられた。特に販路についても産直で、計画的に生産
流通を決まっていた。生産コストを考慮した価格設定が
なされていて、今後の農産物のあり方を垣間見た思いである。
ベリーフを年間100t、トト年間130t生産され
5割が北海道内、4割が本州、1割が外国へ出荷
されていて、今後、外国への販売に力を入れていくとのこと
である。企業による販売力の強さを感じると共に、農家の

今後の方向性も同時に見た思いであった。

株は、この会社のプラントを使って栽培実証し、国内外に、このプラントを売り込むのが目的であるが、現在本市にも、出来つつある農業法人組織で、このプラントを使った取り組みも今後期待される。

ただ北海道と違った本市の気候環境への差も十分に検討する必要があると思われた。

議員名〔橋本幸一〕

◆視察日：令和元年8月21日（水）

◆視察先：北海道苫小牧市

◆調査項目：苫東ファーム（株）について

清水建設・フジ電気の2社の共同出資で、事業を行なっている施設で、この苫東ファーム（株）はケーキ等を使う、生食用の粒度の高い行ゴイではなく、粒度の低い業務用行ゴイのみを栽培している。栽培面積は4haのハウスで太陽光利用型高設栽培の方法で、冬場の暖房費の削減に独自のやり方で対応している。暖かい本市においては更に有効と思われる。今後のハウス栽培の暖房の方法に一考を投じた施設と思われる。行ゴイの生荷先は北海道だけで、10月のみ静岡県菓子メーカーに出荷され輸送は、原則、会社引取り形式で行われ、価格設定も生産コストも加味した価格設定で、理想とする価格設定方法と言える。この施設では、日量約1tを生産出荷しているが、需要・供給の面では、需要に対して供給

が違いつかひいこの事である。日本の農産物が飽和状態の中、一の不足している作型に特化して取り組み、安定経営を目指すという考え方も、これから八代の農業に必要ではないかと思われる。

議員名【橋本幸一】

◆視察日：令和元年8月22日（木）

◆視察先：北海道豊浦町

◆調査項目：（株）アド・ワン・ファームについて

豊浦町にある、アドワンファームは、標高の高い場所、積雪が多い所に設置されている。豊浦町は、行工の栽培が盛んな地域で当初は、行工の生産の長ハウスが建設されたが、冬場の気象的要因から葉物中心のベビリースの水耕栽培に転換されている。ベビリーフは播種から収穫まで約50日で栽培され、1日約14,000株を周年出荷されている。これも、高設の水耕栽培で、すべてコンピュータ制御の環境制御システムでスタートから制御出来、コスト低減に大きく役立っているようである。職員は8人の2交代制で週休2日の体制で残業もなしでやっていることから、スマート農業のメリット面が実証されているようである。この地域は冬場の降雪に大変苦勞があるようで、天上部もビニルの2重張り、融雪のための配

管等 ハウスへのコストも高くなっているように
ある。本市では逆に夏場の高温が問題と思われる
が、この問題がクリエ出来れば、本市でのスマート農業へ
の取り組みが期待出来ると思われる。

議員名〔橋本 亨一〕

◆視察日：令和元年8月23日（金）

◆視察先：北海道函館市

◆調査項目：中心市街地活性化事業（はこだてみらい館・はこだてキッズプラザ）について

函館駅前・大門地区の中心市街地の衰退が
進んでいる中、H27年度の北海道新幹線函館開業
を見据えて函館を訪れる人々に魅力ある町づくりに進め
る為、H18年に改正された中心市街地の活性化に
関する法律に基づき、新たな中心市街地活性化
基本計画を策定し、H25年認定を受け、各種施策を
実施される中の事業として、先進的な技術を活用
した交流の場として「はこだて未来館」親子遊びを通じて
交流の場として「はこだてキッズプラザ」が交流の場を提供
する事により中心市街地の賑わいを創出する目的で建設さ
れた。運営はプロポーガル方式で、指定管理者を決定し
1億3千万円運営されている。他にビル管理費2千万円
インテニアの整備に6千万円が当てられている。

入館料だけが収入と言えるか、支出の額からなると
大きな差があるようであるが、親子の交流の場、先端技術
の交流の場としては貢献している施設と言えるように。

この地域の3年間の年間観光入込客数、中心市街地
の一日当りの通行量、路面電車の一日本乗降人員数の目標値
の結果はすべて達成されている事からすると、事業効果が
あったと言える。今後、この施設のリピーターを回って
いかなければならぬ点からすると、コンテンツの入れ替え
をどうやっていくかにかかっているようである。又修学
旅行のコースにも今後誘致を回っていくとの事で、なか
らう。魅力あるコンテンツの入れ替えが重要と思わ
れる。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 中村和美 】

◆視察日：令和元年8月21日（水）

◆視察先：北海道苫小牧市

◆調査項目：（株）Jファームについて

敷地面積、62,784㎡、資本金500万円、

2013年11月、2社にて、設立、2014年8月

創業、された企業型、ハウス栽培の施設

である。主な栽培品種は、トマト・リーフ裁
培で、三つの工場ハウスがあり、其一工場が

広さ、約1ヘクタールに、ベビーリーフ栽培棟

にて、栽培が行なわれていた。ベビーリーフ

とは、葉物野菜である。其二工場は、ミニ

トマト栽培棟で、約0.5ヘクタールのハウス、ここ

では、1本の木を横に伸ばし、長さ10～15メートル

伸ばし続け、10ヶ月に一度収穫するとのこと、

其三工場は、トマトと他品種栽培で、約1ヘクタ-

ールのハウスである。従業員は15名で、

ペーベリーは、3~4週間で収穫され、年間
100トン、/回300キログラム~1トンの収穫との事。
ミトマトは、年間130トンの収穫であり、糖度
は、8~10度との事。環境を考えて、すべて、水耕
栽培であった。冬は、寒いので暖房には、
天然ガス利用のガスエンジン、木質チップ
利用のバイオマスボイラー、温泉熱利用の
ヒートポンプでの育成である。企業経営の
為に、雪対策等も、出来ているが、日照時間
が、冬は、足りないのが悩みとの事であった。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【中村 和美】

- ◆視 察 日：令和元年8月21日（水）
- ◆視 察 先：北海道苫小牧市
- ◆調査項目：苫東ファーム（株）について

栽培面積は、2ヘクタールのハウスが2棟
で、いちご栽培専用の企業型農場である。
苗定植後、約3ヶ月で収穫が可能との事。
主な出荷先は、近隣のケーキ屋で、いちごの
糖度は、生クリームの関係で低い。朝、収
穫し、箱詰めを行ない。次の朝、ケーキ屋が
それぞれ取りに来るとの事。栽培方法は、
水耕栽培であり、立派な施設であった。
栽培温室2棟は、太陽光利用型高設裁
培温室との事。資本金4億6,120万円。
富士電機（株）と清水建設（株）が80%出資。
その他に、銀行、信用金庫が株主であり、
従業員の50名の内、43名がパートの企業農業。

受粉は、人力では、難かしいので
蜂が活躍する。寒いので、越冬出来
ないので、蜂代に年間500万円も、かかる
との事でした。八代は、個人経営が主で
あるが、ここ、北海道は、寒さ対策に、
負担がかかり、企業経営になるのだ
と思った。企業の宣伝も兼ねての農業
経営である。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 中村 和美 】

- ◆視 察 日：令和元年8月22日（木）
- ◆視 察 先：北海道豊浦町
- ◆調査項目：（株）アド・ワン・ファームについて

札幌市による農地特区制度の利用で
農地賃貸を受け、2008年5月、丘珠町に農地
10,347平方メートルを賃借、現在、約20,000平方
メートルの敷地に、鉄骨フィルムハウスを建設
して、サラバレタス栽培を行なっている。
サラバは、夏場、30～50日で収穫、冬場は、
90日で収穫、ハウスの温度管理は、すべて、
コンピューター制御の全自動で行なわれ、発足
時は、専用箱に培土を入れているが、様々な
問題に直面し、環境面からも、養液を再利用
する、水耕栽培である。1棟に2,000束、
1日14,000束が収穫されているとの事、
収穫作業は、バリカン式芽刈り機や

品質保持の為に、専用の選果機械を
開発し、作業時間の短縮、労働人員
削減にも成功したとの事。その他に、
ミニトマト、0.5ヘクタール、イチゴ、0.5ヘクタール、
が栽培されていた。ミニトマトは、畦の間
が広く、作業や太陽光が入り易いように
計画されていた。ここでも、雪との戦いが
今後の課題との事であった。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 中村 和美 】

◆視 察 日：令和元年8月23日（金）

◆視 察 先：北海道函館市

◆調査項目：中心市街地活性化事業（はこだてみらい館・はこだてキッズプラザ）について

函館駅前、大門地区は、中心市街地として、
商店街、朝市を、はじめとする、観光の拠点と
して、発展していたが、現在、少子・高齢化に
よる、人口減少が、目立って来たとの事、そこで、行政
は、昔の賑わいを、取り戻す為に、函館市中心街地
活性化基本計画を平成25年4月から、平成30年
3月迄の5年計画として、市営電車駅沿線200
メートルに、58事業実施計画を立て、進めてきた。
函館駅前に、地下1階、地上16階建てのビルが完
成、三階に「はこだてみらい館」四階に「はこだてキッズ
プラザ」を開設、はこだてみらい館では、低学年が
利用し、高精細LEDディスプレイ（縦2.4m、横14.4
m）の大画面に、街の夏祭りや花火、イカの習性

が、わかる画面が迫力ある画像であった。他に、
パソコンゲーム遊びの、子供がたくさんいた。一日
平均100組の親子が来るとの事。四階、はこだてキッズ
プラザでは、たくさんの遊具があり、中でも、ネット(綱)
の中で、全身を使って、運動機能の発達を育むもの
クライミングウォールに挑戦する子供、多くの親子が
すばらしい、ふれあいをやっていた。八代市も
遊園地がないので、親子のふれあいが
できる大型のキッズプラザが必要と思った。
(両施設有料)

議員名【前川 祥子】

◆視察日：令和元年8月21日（水）

◆視察先：北海道苫小牧市

◆調査項目：（株）Jファームについて

広大な工業団地の一角に、敷地面積6.2haの中に、オニエ場1.0ha、バビリーフ栽培、オニエ場0.5ha、トマト栽培、オニエ場1.0ha、トマト・多品種栽培がそれぞれ温室で行なわれていた。栽培方法は、ラント型 高度栽培制御システムを取り入れ、日射、風向き、温度、湿度のデータを取り込み植物の生育に最適な条件で制御される。また土を使わず、生育状況に合わせて最適な養液を自動配合し、トコトに供給する。トコトの木は最長10～15mぐらい伸びるので、横にずらしながら一定の高さとなるよう作業者が調整する。リーフ栽培は、人工光型の発芽室で発芽させ、その後育苗ベッドで成長させ、栽培ベッドに定植され、水耕栽培で行なわれている。作業スペースは最小化し、栽培面積を最大化している。またバビリーフの収穫方

法は、お茶の収穫機械を改良して使用されていた。

「植物の成長にかかせないのが、光合成で、そのために光、CO₂、温度、養分の4要因を最適化された効率的な栽培法であった。そのエネルギーは天然ガス製造のガスエンジン、木質チップを使ったバイオマスボイラ、温泉熱によるヒートポンプ等から実証実験をも兼ねて利用されている。出資額は定かではないが、アドワン・ファームとJFEエンジニアリングの2つの企業の協同出資であることから、国の補助金を活用しているのはもちろんのことだが、相当の額であろうと予想する。土地、建物、機械そしてその資金を考えると、まだまだ本市に於いては考えられない規模の農業ではあるが、日本の農業者減少と共に国や県が進めている農地集積は、いずれはこのような農業形態を考えた上での政策なのだろうと思った。

議員名【前川 祥子】

◆視察日：令和元年8月21日（水）

◆視察先：北海道苫小牧市

◆調査項目：苫東ファーム（株）について

苫東ファームは苫小牧東部工業基地においてH26年から農林水産省の「次世代施設園芸導入加速化支援事業」により栽培面積4haに及び国内最大規模のいちご栽培施設で、通年にわたるいちごの生産・販売が行なわれている。いちごはケーキ用のみの栽培が行なわれ、主に道内での販売で、多くはケーキ屋が直接買い求めにやってくるそうで、そのため、出荷のコストを抑えることができる。いちご生産施設は、太陽光利用型高設栽培温室で、主なエネルギーは地場木材利用による木質チップボイラやヒートポンプ、ガスヒーターが利用されている。

選果場、冷蔵設置、荷捌所、環境制御等を行う管理事務所は、併設され、痛みの早いいちご

だけに、短時間の作業と品質保持には一番気を配られていたように思う。ただケーキ用いちごなので、固くて、あまり糖度がのらない、日持ちする物を栽培している。

栽培は全て養液栽培で、環境制御コンピューターでコントロールされていた。ただ収穫だけは人の手が入り、いちごの色、形、大きさ、いちみ等の最後のチェックも人の目かどうにも必要であるということであった。

これも農業ビジネスとして^{企業が}新規参入であるが、出資額がやはり大きいため、国の補助金も利用にいきなり、農林水産省だけでなく、その他の省庁のシフトも出てくるということで、仲々大型農業をビジネスとしてや、していくにはまだまだ苦労している様子であった。

国も日本の農業を本気で維持し守る考えがあるのであれば、全国の農地を見て回り、現行の農業法でうまく機能できているのかと調査する必要がありと思った。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【前川 祥る】

◆視察日：令和元年8月22日（木）

◆視察先：北海道豊浦町

◆調査項目：（株）アド・ワン・ファームについて

が取り入れている

これまで視察してきた Jファーム、苫東ファーム、高度
栽培環境制御システムや IoT等先進技術の活用により
ハウス内の環境（温度・湿度・日射量・CO₂・肥料灌水など）
をコンピュータ制御で野菜の生育に最適な栽培環境
や省力化、高品質生産を創り出す最先端の
栽培方法等は、2005年にアド・ワン・ファーム
がAGCグリーンテックと共同開発することにより
実現可能となり、これが元となり企業グループ
として Jファーム等も連携して行なわれていることが
分かった。アド・ワン・ファームでも、実証実験を
続けながら品質の高いトコト、ベビーリーフ、
いちごの生産をしながらさらに2020年から
道内初の「バニラビーズ」の量産体制に移行することを

目指している。

邦国と直で連携をして ロッパ・ヤクニツ市に高断熱の農業ハウスも建設し、平和条約を締結していない ロッパと技術提携をすることにより、平和条約を結ばんとする日本政府の政治的戦略に一役買っているようである。先進的技術開発というものは、日本国内の農業の発展はもちろん、他国との親睦交流においても非常に重要なものであるということ改めて認識した。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【前川 祥子】

◆視察日：令和元年8月23日（金）

◆視察先：北海道函館市

◆調査項目：中心市街地活性化事業（はこだてみらい館・はこだてキッズプラザ）について

指定管理者3社と函館市は、連携を図り先端的な技術を活用し、親子に年代別の遊びを通して、交流する場を提供し、中心市街地の賑わい創出に繋げている。

最も感心したことは、指定管理者は入館者には必ずアンケート調査をし、実情を掴みながら指定管理者3社と市で月に1回協議の場を備えていることである。互いのデータを持ち寄り、より一層集客に繋げることや、入館者とどう地域の経済効果に繋げるかを常に検討されている。

特に課題とされていることは、平日の施設の利用者の増加であった。あくまでも設置の目的は、中心市街地の賑わいの創出である。そのため

市民や観光客に一年を通じて利用してもらい、市内で少しでも買い物をしてもらいたいと考えている。管理者は、いろいろなワークショップを設け、その事業を市の広報誌や新聞に掲載し、また子供向けはチラシを学校に配布したりして、広報活動には最も経費をかけていた。また館の利用者は、普段は大人100円子供300円のとこで定期券を用意して3ヶ月900円としている。これは利用者にはかなりお得で、保育所に預けられない幼児の子育世代には毎日でも利用したいありがたい場である。

指定管理者制度の導入事業ではあるが、市が指定管理者と共に事業に携わっていることは、市民にとっても安心であり、今後の市全体のまちづくりにおいて職員の能力向上にも大いに繋がると思った。

自由民主党会派 {礎・絆・和} 行政視察所見

委員名 {谷川 登}

視察日 令和元年8月21日 {水曜日}
視察先 北海道苫小牧市
調査項目 {株} 苫小ファームについて

苫東ファーム株式会社は、平成26年に農林水産省の次世代施設園芸導入加速化支援事業により、苫小牧東部工業団地内に栽培面積4 h a に及ぶ国内最大規模のいちご栽培施設である。

まず、定植、開花後にミツバチで受粉をして、葉かき {葉の間引き} 作業を行いまして、熟した果実を随時収穫後選果になる。

苗の定植後、約3カ月で収穫が可能となっている。

又、いちご施設については、平成26年に2 h a を建設、さらに、平成28年に2 h a を建設したのが、太陽光利用型高設栽培温室である。

チップボイラー施設については、地場木材利用による木質チップボイラー棟を整備さらに、ヒートポンプ、ガスヒーターも設置をしている。

集出荷施設管理棟は、木造平屋建て {786.5 m²} で環境制御等を行う管理棟である。

養液栽培は、温室内に養液栽培を設置し、夏季の冷涼な気候、高度な環境制御技術により北海道の大地で大幅な収量増加を栽培し、市場の要望に応じた美味しいいちご生産販売をしている。

本市においても、チップボイラー施設などの導入が必要ではないかと思う。

自由民主党会派 {礎・絆・和} 行政視察所見

委員名 {谷川 登}

視察日 令和元年8月21日 {水曜日}
視察先 北海道苫小牧市
調査項目 {株} Jファームについて

株式会社 Jファームは、スマートアグリシステムを採用した植物工場でベビーリーフとトマトをPRセンター内に設置されたコントロールルームで温室内の環境をモニタリングし、管理を行って水耕栽培を行っている栽培棟である。第一ベビーリーフ栽培棟の広さ1.0ha 軒高4mで栽培、第二トマト栽培棟の広さ0.5ha、軒高5m、第三トマト、多品種栽培棟が、広さ1.0ha、軒高5mで栽培を行っている。

又、Jファームでは、天然ガスを燃料に電気、廃熱だけでなく排気ガスに含まれるCO₂も有効活用するガスエンジントリジェネレーションシステムを行っている。

さらに、地域の木質バイオマスを有効活用するバイオマスボイラ、さらには未利用エネルギーである温泉熱などの多様なエネルギー源を活用し、ハウス内の電気、熱、光合成に必要なCO₂を導入することで様々なエネルギー利用の最適化を図り省エネで環境負荷を軽減した栽培を行っている。

又、敷地内には、出荷、管理棟では、収穫したリーフ類の包装をして、さらには、野菜の鮮度を落とさないために、部屋全体を冷蔵を行っている。

又、金属探知機を導入し、製品の安全に万全に出荷している。

本市においても、地域資源によるエネルギー利用した栽培ができる高度施設が必要であると思う。

自由民主党会派 {礎・絆・和} 行政視察所見

委員名 {谷川 登}

視察日 令和元年8月22日 {木曜日}
視察先 北海道虻田郡豊浦視察
調査項目 {株アド・ワン・ファームについて}

2013年1月、{株} アド・ワン・ファームと J F E エンジンアリング {株} の共同出資により、苫小牧に大規模のスマートアグリプラント {株} J ファームを設立し、高糖度トマト及びベビーリーフの栽培を開始、順調に生産を伸ばし3年後には、丘珠に同規模の札幌工場建設を行い本格的な高糖度トマトの増産体制を整えた。

2016年には、ロシア、ヤクーツク市からの要請により、北海道総合商事 {株} と共に、極東ヤクーツクに高断熱の農業ハウスを建設し、世界的にも類を見ない -60°C の極寒の地にてトマト栽培に成功している。

又、ベトナムにて現地企業ロータスグループで銘菓 {白い恋人} の石屋製菓の要請により、海外からの輸入に頼っていたバニラの試験栽培を北海道で栽培に成功している。

又、未来農業をカタチにするグループ企業のアド・ワン及びアド・ワン・ファームとともに、信頼と実績、最先端のテクノロジーにより、国内はもとより、ロシア、ベトナムなど世界に進出する農業生産企業グループであった。

自由民主党会派 {礎・絆・和} 行政視察所見

委員名 {谷川 登}

視察日 令和元年8月22日 {木曜日}
視察先 北海道函館視察
調査項目 中心市街地活性化事業について

はこだてみらい館は、先端的な技術を活用した体験、交流の場を、キッズプラザは、親子に遊びを通じて交流する場を提供し、中心市街地の賑わい創出を図っている。

みらい館には、常設としては、国内最大級の高精細LEDディスプレイを設置しており、函館の風景映像の放送やセンシング技術を用いたゲーム等を体験できるほか、様々な映像コンテンツを備え、遊び、楽しみながら学ぶことができる施設である。

また、キッズプラザは、全天候型の屋内公園として、大型のネット遊具やクライミングウォール等を設置しており、全身を使った遊びを通して、子どもの運動機能の発達を育む施設である。

課題としては、遊びや体験を通じて学ぶ社会教育的施設ではあるが、中心市街地の賑わい創出が設置目的であり、市民や観光客など、入管者数をいかに増やすかが今後の課題であった。

会派 自由民主党 和 行政視察所見

議員名 【 高山 正夫 】

◆視 察 日：令和元年8月21日（水）

◆視 察 先：北海道苫小牧市

◆調査項目：（株）Ｊファームについて

2013年、アド・ワン・ファームとＪＦＥエンジニアリングの共同出資によりスマートアグリプラント Ｊファームとして設立。（敷地面積62,784㎡、施設面積28,592㎡）最先端テクノロジーを駆使し、栽培技術の向上を図り、高濃度トマトおよびベビリーフの生産に成功。3年の後には、札幌工場を増設し、栽培が困難といわれるロシアやベトナム等に進出、グローバル戦略に成功している。

苫小牧工場には、第1ベビリーフ栽培棟、第2トマト栽培棟、第3トマト・多品種栽培棟を有し、「オランダ型高度栽培制御システム」を導入。栽培棟全ての最適な室内環境をコントロールルームで遠隔管理している。

栽培方法の特色は、トマトについては、生産状況に合わせた最適な養液の自動配合するなどの水耕栽培。収穫は、ハイワイヤー栽培＋作業車の活用などにより、作業員の身体に負担をかけないメリットもある。ベビリーフは、人工採光型の発芽室にて発芽させ、「育苗ベッド」で成長。最終的に「栽培ベッド」に定植する。また、栽培ベッドを可動式にし、スペースの縮小化を図り、栽培面積の最大化を実現した。

また、資源を活かし、エネルギーの省力化のため、天然ガス・バイオマス・温泉熱など、積極的に技術・設備を投入しているところに感銘を受けた。

会派 自由民主党 和 行政視察所見

議員名 【 高山 正夫 】

- ◆視 察 日：令和元年8月21日（水）
- ◆視 察 先：北海道苫小牧市
- ◆調査項目：（株）苫東ファームについて

栽培面積4haという国内最大規模のいちご栽培施設。農林水産省の「次世代施設園芸導入加速化支援事業」を活用。農業事業者以外の民間企業6社（電機・建設・金融関係）の大手企業が出資、省エネ・IT・工業技術などを活かした施設園芸を確立。

平成26年から3カ年に渡り施設整備を進め、初年度は2haの「太陽光利用型高設栽培温室」と「チップボイラー施設」、「養液栽培設備」、「集出荷施設・管理棟」、等の主要施設を建設。28棟を連ねた栽培温室でイチゴの通年栽培がスタートする。その後「完全人工光型育苗施設」を設置、さらに2haを増設し、国内最大規模という「いちご栽培施設」を整えている。出荷先は、業務用イチゴが主であり、製菓店・食品会社などに販売している。業務用は通年で需要が見込めるため、安定供給がビジネスの大きなポイントであった。

課題は、冬場の燃料費を抑えるため、地場エネルギー資源を有効活用に入れ「木質チップボイラー」設備を設置している。課題は、安定生産・気象環境に応じた栽培環境の最適化の継続。日射量不足を補完のためのLED光を導入などの設備面の強化である。業務用イチゴは、通年で需要が見込めるという。安定供給が図れる、ビジネスメリットを改めて感じた。

会派 自由民主党 和 行政視察所見

議員名 【 高山 正夫 】

- ◆視 察 日：令和元年8月22日（木）
- ◆視 察 先：北海道豊浦町
- ◆調査項目：アド・ワン・ファームについて

（株）ホッコウ（ビニールハウス等園芸施設の設計・施工会社）の農業事業分野としてアド・ワン・ファーム設立。札幌市と豊浦町に約 10,000 坪の太陽光利用型のハウスを保有。栽培野菜は、コンピューター制御による水耕栽培と養液管理された土壌栽培で生産されている。

農業自動化のモデルとしては、施設園芸の先進国オランダで進められている自動化と効率化に注目。採算性の向上及び大規模農業を安定的供給と少数な作業人員の中、いかに生産効率性の向上を図ること等に力点を入れた。栽培野菜としては、通年生産・出荷を目標。作業自動化は効率上、必須である。現在では、ICT機器活用によるタッチパネルの導入、パソコンでの遠隔操作も行っている。

担い手不足の解消のためにも、今後、ICT機器の活用で管理ができるようになれば、先進的農業で農業の魅力が広がると感じた。



会派 自由民主党 和 行政視察所見

議員名 【 高山 正夫 】

◆視 察 日：令和元年8月23日（金）

◆視 察 先：北海道苫函館市

◆調査項目：中心市街地活性化事業について「はこだてみらい館・はこだてキッズプラザ」

旧中心市街地活性化法に基づき、「函館市中心市街地活性化基本計画（旧計画）」（平成11年5月）を策定。しかし、平成の景気の低迷、大規模集客施設の立地、人口減少等により、衰退。打開策として、新幹線新函館開業を契機に、基本コンセプトに、「市民生活と歴史・文化・観光が融合した回遊性の高いまちづくり」を掲げ、新たな「中心市街地活性化基本計画」を策定した。平成28年10月に指定管理者制度により、「はこだてみらい館・はこだてキッズプラザ」を設立。利用者数初年度は、19,687人・使用料収入7,164,580円・翌年度は、利用者数42,990人・使用料収入15,678,330円と倍増、中心市街地活性化の起爆剤となっている。

「はこだてみらい館・はこだてキッズプラザ」施設の特徴は、ICT機器など最先端技術を活用し、大人から子供まで、学習とアミューズメント性を持たせた複合施設として運営されている。キッズプラザについても、「発想力・想像力」を持たせる、室内公園と言った方が馴染む。本市にも、安全・安心な親子間交流の場として、一考するべきである。



令和元年11月10日

自由民主党 和

代表 橋本 幸一

八代市議会自由民主党 和

管外行政視察復命書

視察期日：R1年11月6日（水）～R1年11月8日（金）

視 察 先：台東デザイナーズビレッジ（台東区）

政府要望（国交省）

東京都中野区（中野区）

本所都民防災教育センター（墨田区）

参 加 者： 議員 橋本 幸一



議員 中村 和美



議員 前川 祥子



議員 谷川 登



議員 高山 正夫



□平成元年11月6日（水）台東デザイナーズビレッジ（台東区）訪問



□平成元年11月7日（木） 政府要望（国交省）



□平成元年11月7日（木） 妊娠・出産・子育てトータルケア事業（中野区役所）訪問



□平成元年11月8日（金）本所都民防災教育センター（墨田区）訪問



※詳細 別添所見のとおり

議員名〔橋本 幸一〕

◆視察日：令和元年11月6日（水）

◆視察先：東京都台東区

◆調査項目：台東デザイナーズビレッジについて ①

平成15年廃校となった小学校を再活用する為、
どのような活用するか検討した結論として、台東区
で以前から盛んな産業で、現在疲弊している、ファッション
系の産業の復活の為、デザイナーの育成と付加価値の高い
製品をつくる場として改装を行ない入居者の募集を行なった。
入居期間3年で4月入居13年後の3月卒業とし、2タイプの室の
賃料が設定されている。条件はビジネスとして申し込める人
材である事とし厳密な面接で決められる。これまでに約90人の
卒業生がいて、約4割の卒業生が台東区で事業を行なっ
ている事で、この事業の效果としては上がっていると言える。
この事業の重要な役割を担っているのが、社長と言わ
れりインフォメーションコーディネーターで入居者への色々な
事業のアドバイス、他業種の交流や、つながり等を

(台東デザイナーズビレッジについて)

②

橋本幸一

事業の成功へのチャンスのお供を担ってくださる。

ハード面とソフト面双方バランスよく支援されていると感じる。

この台東区以外にも廃校となった校舎もあり、いすゞも福祉系施設、スポーツ施設等に再活用されていて、ファシリテイ・マネジメントも、(つかり)文庫として活用されていると言えよう。

自由民主党 礎・和 視察所見

議員名【橋本幸一】

◆視察日：令和元年11月7日（木）

◆視察先：東京都中野区

◆調査項目：妊娠・出産・子育てトータルケア事業について

中野区の子育てトータルケア事業は、平成27年から事業が開始され妊娠、出産、子育てから保育園、学校と子供の生長に1つから子育て支援が行われている点からすると、本市で行われている子育て支援の形態と似ている。

今回の視察は、最初の子育て支援の妊娠、出産、子育ての期間の事業で、中野区の介護保険圏域を元に4つの地域に分け、すこやか福祉センターとして事業が展開されている。妊娠から出産、子育てまでの10ヶ月のニーズに応じた切れ目のない支援を行うため、妊産婦に対する保健指導や各種サービスの提供として、保健師による相談支援、支援プログラム作成等トータルケア事業を実施されていると言え、事業内容も1人の事業家の多岐にわたり、総勢39名の保健師では大変な仕事量と思われる。

最近では産後において、家庭での援助が受けられず、支援を必要とする産婦や乳児に対して自身で育児支援も民間事業者へ委託し、近年は利用内容の拡充もされていて、本市が10月から取り組む産後ケア事業も今後参考になるようである。

議員名〔橋本 幸一〕

- ◆視察日：令和元年11月8日（金）
- ◆視察先：本所都民防災教育センター
- ◆調査項目：防災体験（消火・応急手当コース）

東京都には3つの都民防災~~センター~~教育センターがあり

東京直下型地震の危機を想定した防災意識の高さを

うかがい知る事が出来る。本市の日奈久断層に於ける地震の危機

と同じと言える。今回体験した地震体験コーナーでは

直下型の震度7と阪神淡路地震型の震度7を体験したが、同じ震度7

でもかなり体感の差があるのがわかった。本市の日奈久断層の地震が

どのタイミングが発生するのか、重要な所である。

又火災時の避難方法、消火方法等又心臓マッサージの応急

手当等の体験をさせていたのだが、大変参考になり、同時に

日常的に訓練する必要性を感じた。この日は子供連の

見学も多く、他県の子供連の見学も多いためである。

県にもこのような施設の必要性と子供の頃からの日頃の

訓練の必要性を感じた。

議員名 前川 洋 子

◆視 察 日：令和元年11月6日（水）

◆視 察 先：東京都台東区

◆調査項目：台東デザイナーズビレッジについて

ファッション雑貨関連産業が集積している地域性をうまく活かした廃校活用事業であると思った。また「台東デザイナーズビレッジ」に入居すること事態が非常に難しく、いわば、才能と将来性を見込まれた人しか入居することができないため、この学校を卒業することに非常に付加価値があり、多くのファッション関係の企業から引き合いが多いそうだ。そのため、今では「ものづくりのまち」として再注目され、産業面だけでなく、観光面でも貢献ができていた。今後の課題点としては、卒業者の区内定着をより向上させるこのようだ。本市も他県や他市町村から多くの人々が来訪し、定着するためのよいきっかけとなるような、地域の実情にあった廃校活用を考えていかなければならないと強く思った。

自由民主党 礎・和 視察所見

議員名 [前川 祥子]

◆視 察 日：令和元年 11 月 7 日（木）

◆視 察 先：東京都中野区

◆調査項目：妊娠・出産・子育てトータルケア事業について

本市の人口の3倍近くある、人口約33万人の中野区では「妊娠・出産・子育てトータルケア事業」は個々のニーズに応じた切れ目のない支援を行うため、大変充実した支援体制づくりを進めていた。特に、母親の個々にかかえている問題が、本人にとって重篤化する前に、行政が対応できるように、母親が気軽に相談できる体制が整えてあった。また、その事は医療費削減においても、限られた保健婦の有効活用においても最も重要視されているように感じた。この体制は本市も見習っていかねばならない事であると思う。

議員名【前川 祥子】

- ◆視察日：令和元年11月8日（金）
- ◆視察先：本所都民防災教育センター
- ◆調査項目：防災体験（消火・応急手当コース）

インストラクターが各体験コーナーをツアー方式で案内した。体験したコーナーは、地震コーナー、煙体験コーナー、消火コーナー、応急手当体験コーナーで、どれも初めての体験ばかりで、とても自分にとって関心が高く、身のある研修であった。

いつ、どこで、どんな場面で出合うかわからないのが災害である。どんな時もまず落ち着いて初動体制を取らなければならない。

それができるかどうかはまず、自分の安全確保に繋がり、余裕があれば他人を助けることにも繋がる。改めて今回学ばせてもらった。

自由民主党会派 {礎・絆・和} 行政視察所見

議員名 {谷川 登}

視察日 令和元年11月6日 {水}
視察先 東京都台東区
調査項目 台東デザイナーズビレッジについて

東京台東デザイナーズビレッジは、平成15年3月に閉校した旧小島小学校校舎を改修して施設を整備した建物である。

台東区は、靴、鞆、アクセサリー等のファッション雑貨関連産業が集積している地域であり、台東区の地場産業の活力、競争力を高めるためには、企業の自主企画による高付加価値、差別化製品を生産し、デザイナーに創作の場を提供し、デザイン分野の人材と機能の集積を図り、創造的なものを生み出す拠点とするため、デザイナーの創業支援施設として台東デザイナーズビレッジに取り組んでいる。

改修工事にあたっては、できるだけ学校の雰囲気を残しつつ、事務所として必要な整備の工事を行うことを目的に改修工事を行った。

工事期間は、平成15年11月12日～平成16年2月13日で改修工事が終了した。

改修工事費用約1億8,000万円であり、台東デザイナーズビレッジ施設整備にあたり、新事業支援施設整備費補助金 {経済産業省、東京都} の補助金額9,500万円交付を受けている。

又、入居者への総合支援については、ファッション産業に精通したインキュベーションマネージャー {村長} を配置し入居企業の指導育成や地元企業との業務の斡旋、調整など、入居企業支援のための総合調整マネジメントを実施し、村長は、公募により決定している。

又、状況に応じて、台東区商工相談員や税理士等を派遣し、経営、税制等の相談を開催している。

本市においても、旧学校校舎の利用の検討が必要ではないかと思う。

自由民主党会派 {礎・絆・和} 行政視察所見

議員名 {谷川 登}

視察日 令和元年11月7日 {木}
視察先 東京都中野区
調査項目 妊娠、出産、子育てトータルケア事業について

すこやか、福祉センター中野区では、日常生活圏域を4つに分け、それぞれの圏域にすこやか福祉センターを置いている。

子ども、高齢者、障害のある人、妊産婦など、誰もが住み慣れた地域で安心して、自立した生活を送ることができるよう、職員によるアウトリーチ活動を積極的に進めるとともに、総合的な支援をするための身近な相談窓口、地域における支えあい活動の推進のための拠点施設として事業を展開している。

母子保健及び精神保健などの相談事業を実施している他、切れ目のない地域における地域包括ケア体制を推進する拠点施設となっている。

又、中野区における出生数と合計特殊出生率は増加傾向にあったが、2018年は出生数2,525人、又、母親となる出生率年齢15歳～49歳の女性である。

妊産期相談支援事業 {妊娠期、子育て期支援プラン作成} 中野区に妊娠届けを提出した全妊婦及び支援を必要とする産婦を対象として、保健師が面接を行い個別の支援プランを作成し、産前、産後の事業やサービス提供に繋げている。

また妊娠20週以降の妊婦への架電 {プレママコール} と通知郵送により面接とプラン作成の勧奨を行っている。

面接支援プラン作成業務の一部は、民間事業者に委託して取組んでいる。

又、利用者の評価については、産前産後の支援、出産後の手続き等が解消されたが、約9割、必要な支援が分かったが、9割以上であった。

今後の課題については、区内事業者の拡充及び父親向けの事業の取り組みである。

自由民主党会派 {礎・絆・和} 行政視察所見

議員名 {谷川 登}

視察日 令和元年11月8日 {金}
視察先 本所都民防災教育センター
調査項目 防災体験 {消火、応急手当コース}

本所防災館では、インストラクターが各体験コーナーをツアー方式で案内し防災シアター施設会場にて、地震や津波など防災をテーマにした映像を大型スクリーンで上映があり、今自分たちに何ができるのか災害への備え助け合いの大切さなど防災について学ぶ施設会場であった。

又、地震体験施設では、本物そっくりの震度7の地震体験し、地震の恐ろしさを学ぶ体験施設である。

施設2階では、煙体験施設では、建物で火災にあった時、煙の特性や危険性を学び、煙が充満し視界がきかなくなった体験室の避難の方法や、冷静な判断力を学ぶ施設であった。

消化体験施設では、大型スクリーンに映し出されて火災を、模擬消火器や屋内消火栓消化し適切な消化方法や判断力や行動力を身につける施設である。

応急手当体験コーナーでは、心肺蘇生の方法や、AEDの使い方について訓練用の人形を実際に使って体験する施設であった。

本所都民防災センターにて、万一の場合に備えて正しい応急手当の方法を身につけることができた。

議員名【 中村 和美 】

- ◆視 察 日：令和元年 11 月 6 日（水）
- ◆視 察 先：東京都台東区
- ◆調査項目：台東デザイナーズビレッジについて

南東大震災後の昭和3年築の小学校を
改築し、ファッションや雑貨、デザイン関連
ビジネス分野での起業を目指すデザイナーや
クリエイターを支援する施設である。現在、19社が
入居しており、小学校改修工事に1億8000万円
普通教室を二分、三分し、靴、鞆、アクセサリー
ジュエリー等を個々に生産販売して、台東区の
イメージアップやPRに大きく貢献しているとの事。
一人立ち出来たら、市内、市外に店舗を持ち
又、悩み事があれば、ベテランマネージャー
が相談に乗ってくれるとの事、八代市でも
起業希望者が若い人にはいると思う。
このような施設があれば、人口増にもつながる
と思った。

自由民主党 礎・和 視察所見

議員名【 中村 和美 】

◆視 察 日：令和元年 11 月 7 日（木）

◆視 察 先：東京都中野区

◆調査項目：妊娠・出産・子育てトータルケア事業について

中野区では 日常生活圏域を四つに分け
それぞれに、すこやか福祉センターを設置している。
本日は、北部すこやか福祉センター所長との研修で
あった。北部センターは、四町区からなり、10名の
スタッフが、妊娠期から、出産4ヶ月迄、妊婦
への助産師による、産後の母体ケアや育児相
談を実施しているとのこと、H30年度実績は、
2,444人（産後）他に、ショートステイ（宿泊型）
デイケア、ケア支援派遣が行なわれている。
現在、核家族が増え、なれない若夫婦では、
母親は、たいへんだと思う。このような
組織があれば、若い母親も安心して
子育てが出来ると思った。

議員名【 中村和美 】

◆視 察 日：令和元年 11 月 8 日（金）

◆視 察 先：本所都民防災教育センター

◆調査項目：防災体験（消火・応急手当コース）

^{ホンジョ}
本所 防災館へ伺う。最初に 大型スクリーンにて、震災の状況（淡路、東北、熊本）そして、東京であつたらのシミュレーション等を見る。その中で、「自助、共助」の大切さを今さらながら、知った。災害時の言葉として、「お、か、し、も」**①**おさない。**②**かけない。**③**しゃべらない。**④**どらないの言葉が重要との事、後は、
①震度七の地震体験 ②水消火器を使って消火体験 ③煙にまかれ脱出する煙体験 ④人形を使った救急心肺蘇生体験を行った。訓練でもあせるので、実際時の対応は、落ちついて、出来るのが心配である。

会派 自由民主党 和 行政視察所見

議員名 【 高山 正夫 】

- ◆視 察 日：令和元年11月6日（水）
- ◆視 察 先：東京都台東区
- ◆調査項目：台東デザイナーズビレッジについて

デザイン分野に特化した廃校活用、全国で注目を浴びている台東区デザイナーズビレッジは、平成16年4月に、旧小島小学校の校舎をリノベーションして設立された。ファッションやデザイン関連分野の起業を目指すデザイナーやクリエイターを支援する拠点を目指す。支援の内容としては、都心でありながら低額な家賃で事務所として貸し出す。制作室の無償提供・高価なファッション関連誌が揃う図書室・作品展示可能なショールームの提供など充実このうえない。入居に関しては、応募が殺到、書類選考から1次面接から2次面接と、関門を通して厳選されるなど、狭き門でもある。

また、支援・指導者を配し、インキュベーションマネージャー（通称：村長）による「マーケティング」や「自立に向けた支援」の相談体制も充実。入居者同士はもちろん、業界、マスコミ等とのネットワークの構築を活用したビジネスの展開等の支援を行っている。成果として、本施設出身デザイナーがブランドを立ち上げ、全国で活躍している。まれにみる成功事例であり、本市の廃校活用にあてはめるとすれば、違った分野にしても優秀な指導者を誘致、配置し入居者へ専門的支援、その分野の有名ブランド化を目指す気概のある入居者を募集し、活気ある施設を目指すことだろう。

会派 自由民主党 和 行政視察所見

議員名 【 高山 正夫 】

- ◆視 察 日：令和元年11月7日（木）
- ◆視 察 先：東京都中野区
- ◆調査項目：妊娠・出産・子育てトータルケア事業について

中野区は、生活環境の利便性が高く活気ある「住む・働く・学ぶ」情報発信地として注目される都市である。少子化対策にも貢献できる、住みやすさを実感できる先進地としても、安心な街を目指すところ、子育て対策に力点を置いている。

産前・産後、子育てを応援することをコンセプトに、関連する事業を打ち出して、区民に好評を得ている。トータルケア事業としては、妊婦さんとその家族が、安心して赤ちゃんを迎え、子育てができるように、保健師が妊娠期から相談を受け、ひとりひとりに適したサービスを提供できる事業の展開。産後デイケア事業として、お母さんの休養と赤ちゃんの適切なケアを、日帰りで受けることができる。また、助産師による母乳相談や育児相談なども実施している。その他、事業の詳細メニューも多岐にわたり実施され、その多様さに驚く。本市においても、都会との環境の違いはあるものの、養育に変わりなく先進的な対策を取り入れていくのも必要であると実感した。

※メニュー一例 下記のとおり

○妊娠したら

○母子手帳交付・妊婦健康診査

○産前産後家事支援・子育て応援メール

○食事講座・赤ちゃん学級・マタニティヨガ 他

◎産まれたら

◎デイケア・ケア支援者派遣

◎産後サポート事業・赤ちゃん訪問

◎産後家事支援 他 等々

会派 自由民主党 和 行政視察所見

議員名 【 高山 正夫 】

- ◆視 察 日：令和元年11月8日（金）
- ◆視 察 先：東京都墨田区
- ◆調査項目：本所都民防災教育センターについて

本所都民防災教育センターは、東京消防庁の施設一貫として、防災に対する多種多様な体験が出来る施設として建設された。都民の防災意識は高く、本所を含む、池袋・立川の3地区に同規模の施設を有している。今回の本所防災館については、地震体験・避難体験・応急手当体験・消火体験等々当所の指導員同行で受講する形となっている。関東地区は、将来起こりうる可能性が高い直下型大地震を想定した、都民への防災意識の向上に努力している。本市においても、近年襲った熊本大地震の経験から、よりわかりやすい防災学習のできる場を提供することも必要ではないか。

地震体験



本所都民防災教育センター模型



令和2年1月24日

自由民主党 和

代表 橋本 幸一 様

八代市議会自由民主党 和

管外行政視察復命書

視察期日 令和2年1月15日（水）～17日（金）

視察先 けいはんなプラザ（京都府相楽郡精華町）
英語教育推進事業（大阪府池田市）
議会広報（高校生プロジェクト）（大阪府八尾市）

参加者

議 員 橋本 幸一



議 員 前川 祥子



議 員 中村 和美



議 員 谷川 登



会派視察議員所見

議員名【橋本章一】

- ◆受講日：令和元年1月15日（水）
- ◆研修先：京都府（けいはんなプラザ）
- ◆研修内容：スマートけいはんなプロジェクトについて

国土交通省が2019年度から取り組んでいるスマートシティ事業の先行モデルプロジェクトの認可を受けて進められている地域の1つでスマートけいはんなプロジェクトの名称で進められている。京都府、大阪府、奈良県の3県にわたる地域で、京都府の学園都市を視察させて預いた。この特長は、つくは「学園都市」と違って、産学官民の協力連携による学園都市である。1987年から学園都市^{（の国主導の学園都市）}の立法措置の元、15000haの造成が進められ現在にわたる学園都市の構想が進められて来ている。当初からスマートシティの理念がうたわれ現在に続いていて、この国土交通省のスマートシティ事業に取り組みやすい環境にあつたと思われる。日本が他国に比べ、IT・IoTを利用した事業が非常に遅れている事から、今後、国でも自治体にIT・IoTの推進に力を入れて来ると思われる。

この事業の取り組みについては、地域の課題を十分に認識し、中でもどの部分にどのような方法でIT・IoTを活用する事が出来るかを構築する能力を、養う事が必要と思われた。

この地域で取り組まれている施設間の多様な移動手段の確保として、グリーンスローモビリティや、カーシェア、サイクルシェアやEレバや高齢者の生活支援としてのAIデバイスの導入色々あるプラットフォームの統合プラットフォームの整備、コワーキングの整備は、これからのこの地域の課題を商格にとらえた取り組みであるのが実感出来た。本市にもこれらのIT・IoTに取り組む能力の育成も必要と思われる。

会派視察議員所見

議員名【橋本章一】

- ◆受講日：令和元年1月16日（木）
- ◆研修先：池田市
- ◆研修内容：英語教育推進事業について

教育日本一のおよそを目指して、小中一貫校教育の元、英語教育、幼児教育、ICT教育に積極的に取り組んでおられる。中でも一地区においては、校区にとらわれない特認校制度のもと、1年生から9年生と、新たに義務教育学校に取り組んでおられるのが注視される。英語教育については、教育特例制度で、H16年から小学校1、2年生から英語教育を導入され、英語専科教員を全学校に配置し、毎月1～2回全員が集まり、情報交換され、英語教育の向上につとめておられる。中学校では、会話を主とした取り組みを進められているのも、他の中学校との取り組み方の違いがある。

他にも、英語教員のオーストラリアでの研修制度や、スカイプを用いた、1対1でのテレビ交流や、ICT教育を取り入れた、電子黒板の利用も効果が高いとのことである。本市での参考になると思われる。又オンライン英会話トレーニング、小学校5、6年生を対象とした、ははたさイングリッシュ事業、中学生の後期課程の子供を対象とした、ははたさ塾等、色々な角度から、英語教育の充実を図られている事には感心した。又これらを支援する為の支援員として導入している民間の教育関係、会社から支援員を出向にも関わっているのも、本市の今後の取り組みとして参考になると思われる。

会派視察議員所見

議員名【橋本幸一】

◆受講日：令和元年1月17日（金）

◆研修先：八尾市

◆研修内容：議会広報（高校生プロジェクト）について

八尾市の議会広報誌は、平成11年より配布される方の負担軽減から市報の中に同時に印刷されている。議会広報誌の市議会と高校生プロジェクトの二つの取り組みは過去に高校生議会を開いていたが形式的であり効果がなかった為に高校生を議会の広報誌の作成する過程において、表紙や題字を高校生より募集したり、美術部や書道部等の作品や活動写真を表紙として採用したりして高校生に議会に関心を持ってもらうような活動から始められたようで、その後高校生による議会に関する座談会等を開催したりして、高校生の議会への関わりを深められているのは参考にすべきと思われる。又本市においては、小中学校との関わりは、深いが高校との関わりは、深くないと思われる。この点にも今後再考すべきと思われる。八尾市においては、少しづつではあるが高校生の議会に対する関心は、深まってきていると思われる。他にも議会開会のポスターの作成等も、広報委員会で作成されているが、議会事務局職員との連携や、その分野に秀でた職員が配置された結果でもあると思われる。

会派視察議員所見

議員名【前川 祥子】

2

- ◆受講日：令和元年1月15日（水）
- ◆研修先：京都府（けいはんなプラザ）
- ◆研修内容：スマートけいはんなプロジェクトについて

国家プロジェクトとして、1987年に3府県8市町に於いて、けいはんな学研都市が誕生した。学研都市の特徴は3つあり、産官の協力と連携、文化学術研究施設と住宅の複合開発、クラスター型開発である。クラスターとは、同じ考え方を持つ企業などが集まって、集団を作っていることで、その中心は今回訪問した精華・西木津地区である。

スマートけいはんなプロジェクトは、国土交通省（都市局都市計画課）が2019年度から取り組むスマートシティモデル事業の1つで、新技術や官民データを活用して都市や地域課題の解決を図る事業である。実施団体は、京都府と西日本NTTの協同で実施し、先行モデルプロジェクトとしてフルセンで認められた。連節バスの運行、ロボットセンター、自転車のシェアサイクル、街区をバスで時速20kmで周回するグリーンローモビリティ等を導入して、定年退職後の方や昼間家に居る主婦層や高齢者等の社会参画を促している。その結果、多文化、多世代の共生コミュニティへの実現を目指している。

高齢者社会に入り、機械や化学の研究を通して、いかに生涯快適にくらせる社会をつくり、いかにか、今を生きる私達の大きな課題解決に向けて、今回訪問した地域は最先端で取り組まれていることを知った。本市もこの取り組みをまず理解して、どの分野から取り組むことができるかを考えていかなければならないと思った。

会派視察議員所見

議員名【前川 祥 子】

2

- ◆受講日：令和元年1月16日（木）
- ◆研修先：池田市
- ◆研修内容：英語教育推進事業について

教育日本一を目指す池田市の教育の柱は英語教育、幼児教育、ICT教育の3つで、平成31年度の主な取り組みは、(1)小中一貫教育の推進(2)幼児教育の充実(3)ICT教育の充実(4)在日外国人児童生徒への支援の充実(5)英語教育の充実であった。特に平成16年度の「教育課程特例校」の指定を受けて、現在に至るまで、あべての学年で外国語(英語)活動を実施している。小学1、2年生は年間15時間の英語活動を実施しており、小学校低学年から英語に親しむ環境づくりに努めている。特徴としては、(1)英語専科教員の配置、平成31年度10人配置、予算規模4000万円、(2)教員の海外派遣研修、予算規模94万円、2人分(3)外国人英語講師(ALT)の配置8人(4)外部英語検定「GTEC」(ジーエック)の導入、H29年度から令和元年度予算958万円。これは「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能をバランスよく育成することを目的としている。現在は、大阪府内の高校も「GTEC」を導入している学校が増え、小学校低学年から高校までの個人の英語能力発達状況のデータを収集することができ、また中学校では、外国人と1対1で25分間英語でのやり取りができる、オンライン英会話も(株)ベネッセに業務委託をして実施している。これらの教育内容を保護者にも理解してもらうよう広報活動をして説明している。

「教育日本一」を目指しているだけに、池田市の教育にかける思いは、ソフト予算の540万円とその中身の充実振りとで本筋度がよく分かります。すばらしいと思った。これからの日本を支える子供達の英語教育の習熟度には大いに期待が持たれ、その陰に教育委員会の

熱意とそれに答える教員達の並みならぬ努力を感じ、感動した。
本市の教育委員会も、今以上に力を入れる余力がまだあるので
ではないかと思う。

会派視察議員所見

2

議員名【前川 洋る】

◆受講日：令和元年1月17日（金）

◆研修先：八尾市

◆研修内容：議会広報（高校生プロジェクト）について

八尾市も市議会に於いて、^{これまで}本市とは変わることなく議員で構成された広報委員会
で原稿を基に、[▼]しやろ案を出し、その編集方針に基づいて議会事務局で
作成していた。しかし、もともと市議会に於いて活用し、特に若い人達にも政治
に興味関心を持ってもらおうという気運が高まり、H30年度より高校生と
表紙のコラボを17日、学生の意見を議会に於いて反映させたり、学生との
座談会の特集を組んだりした。そのために広報委員会の議員が、学校にも向き、
直接学生にインタビューや意見交換をし、時には表紙の写真も撮ったりして、
記事を収集する。その事態が学生と議員との距離を縮めることになり、
学生が議員を通じて議会を見近に感じるきっかけとなっているようだ。
議員とは何か、何をしている人なのかということを知ってもらうために、
市政に於いてを通じて発信する事はもちろん大事であるが、直に顔を
合わせ、互いに知り合う中で意見を交わすということにより議員個人
や議会の理解が深まると改めて感じ入った。

18才以上の選挙制度が始まり、家庭や学校の中だけで生活している子供達
だからこそ、このような取り組みで世の中のことを早く知り、
議会制度や、政治というものは自分達の生活に直結しているものである
ということも深く理解してもらいたいと思う。今回の八尾市市議会
に於けるリニューアルした取り組みは、とても素晴らしいものである。
本市も、このような取り組みができるように、広報委員会の編集
から印刷に至るまでのあり方を是非検討していきたい。

会派視察議員所見

議員名【 中村和美 】

- ◆受講日：令和元年1月15日（水）
- ◆研修先：京都府（けいはんなプラザ）
- ◆研修内容：スマートけいはんなプロジェクトについて

京都・大阪・奈良の3府県、8市町にまたがる、関西文化学術研究都市がある。学研都市全域、15,000ha（内文化学研究地区3,600ha）/2地区の京阪奈丘陵地帯に計画、人口4万人、開発主体、国（国交省）府、県、民間で1987年学園都市が開発される。主な目的としては、周辺21,000人在住の内、30年前に町づくりされ、今高令化が25%と年寄りが多くなっている地域で、交通網の整備や事業の開発目的として、四つの課題を出し検討する。

- ①研究機関、企業、住民等の交流、連携、高令者の移動サポートの推進、新たな産業の創出、創業を促す。
- ②高令化する地域社会への対応—高令者（住民）一人暮らし世帯のサポートのためのコミュニケーション、見守り等。
- ③環境を踏まえた持続可能な都市づくり—公共交通機関の利用促進、EVの導入によるCO₂削減
- ④安心、安全な都市形成—災害時の蓄電池やEVを活用したエネルギー確保について、外国人が安心して居住できる様情報や多言語提供、現在は、1台120〜130人乗れる連接バス（一台2億円、国土環境省補助）を2台と、今年は電気乗り合いバスの実証実験が予定されているが、殆んど国交省だけのみの予算との事であった。

会派視察議員所見

議員名【 中村和美 】

- ◆受講日：令和元年1月16日（木）
- ◆研修先：池田市
- ◆研修内容：英語教育推進事業について

H24年4月より、池田市は、「池田市教育ビジョン」に基づき「学びつづけ、ともに生きる池田の子ども」の育成を目指し、五つの項目を柱として教育を行なっている。その中に、

- 社会で生きる実践的な力を育てる。
- 「教育のまち池田」らしい生涯学習社会の実現をめざす

とある。そこで H26年に小中一貫教育の推進にて英語の勉強に力を入れる。H29年には全小、中学校に65型電子黒板が完備、各校教員一人一台、タブレット端末を令和元年に整備、又担任とALTによる英語指導を行う。池田市は、H16年より、小学1、2年生でも、年間15時間の英会話の勉強を行ない、3年生以上は、年間35時間～70時間勉強している。又、「はばたき塾」として、希望者には、中1～2年生は、週1回、中学3年生は、週2回、2時間、無償で受講出来るとの事、約1割の生徒が通っている。指導は業者が行っており、市より、年2,200万円（市内6ヶ所）支出している。池田市の中学3年生の英語力は、全国でも高いとの事、小さい時から英語力をつけるのは、大切と思う。これからは、話す、聞くを即興出来る子供達を作りたいとの事でした。

会派視察議員所見

議員名【中村和美】

- ◆受講日：令和元年1月17日（金）
- ◆研修先：八尾市
- ◆研修内容：議会広報（高校生プロジェクト）について

八尾市議会は議会報を部数105000部、年5回発行、自治委員を通じて、全世帯に配布している。予算としては、H31年度5568000円、編集委員は、副議長（委員長）他は、各会派より1名の7名である。発行は各定例会終了、翌月20日発行する。内容は、個人の一般質問、常任委員会の審査報告、本会議の議決報告（個人）と、八尾市議会だよりと殆んど変わらない内容であった。H29年9月より、編集会議でもっと、若者に議会に興味を持ってもらうように、高校生とコラボした取り組みが必要との事で各高等学校へでも、運動クラブや文化クラブの学生に、直接会って議会の話を行ったり、学生の議会に対する生の声を聞いたり、写真を議会報の表紙に使ったりした。H30年は「議会の広報について」令和元年には、「議会の動画配信について」をテーマにたくさんの各高校の代表と座談会を行なった結果、議会のホームページ、映像配信へのアクセス数が増えたとの事、又、点字（75部）声の市議会だよりも行なっているとの事、八尾も点字や声の市議会だよりも検討する必要があるのではと思った。

会派視察議員所見

議員名「谷川 登」

受講日 令和元年年1月15日 {水曜日}
研修先 京都府 {けいはんなプラザ}
研修内容 スマートけいはんなプロジェクトについて

スマートシティに関する京都府のプロジェクトについては、交通利便性の向上となるMaaSの取り組みは、研究機関や企業のオープンイノベーションを推進し、新たな産業の創出を促すにも、高齢者等の社会参加を容易にするにも必要不可欠な取り組みであるが、これらはスマートシティの土台であり世界の未来像を提示、都市の創造、世界に先駆け未来の暮らしのモデルとなるような新たなライフスタイル、スマートな暮らしを提供することを目指している。

また、研究の中心都市として企業立地等が進んでいるが、敷地規模が大きいことから相互の円滑な移動の障壁があり、企業間の交流活動等に影響があり、都市建設後30年余が経過し、高齢化する地域社会への対応が課題となっている。

そこで、新技術データを活用した都市、地域の課題解決の取り組みとして、施設間の多様な移動手段の確保として、街区間を移動するグリーンスローモビリティを導入し、ラストワンマイルの交通を確保している。

高齢者の生活支援については、高齢化する地域社会への対応と安心安全な都市の形成として、高齢者住宅にAIデバイス、マイクスピーカーを整備し、日常の話し相手、健康相談、薬の服用や食事管理を支援を行っている。

現状における問題点や課題については、実証実験の予算の確保及び企業同士の横連携の難しさが今後の課題である。

本市においても、高齢化が進む中、AIデバイス、マイク、スピーカーを高齢者宅に整備支援が必要と思われる。

会派視察議員所見

議員名「谷川 登」

受講日 令和元年年1月16日 {木曜日}
研修先 池田市
研修内容 英語教育推進事業について

池田市教育委員会は、英語教育推進日本一のまちをめざして、平成28年度から多様な新しい教育事業に取り組んでおり、3つの重点施策として、英語教育推進 I C T教育環境の充実、幼児教育の充実を掲げている。

英語教育の推進については、外部英語検定 G T E C の導入されており、令和元年度予算958万円で小学6年生～中学2年生の全ての児童生徒に、ベネッセが提供する外部英語検定 G T E C を受検させ、その結果から課題を明らかにして、それを克服、改善するために、教員の授業改善や指導法の改善に役立てることを目的に導入され、同時に、新しい学習指導要領では英語の、読む、書く、話す、聞くの4技能をバランスよく育成することが求められており、さらには大学入試や大阪府の公立高等学校の入試問題の変更への対応を見据えて、早期に G T E C を導入している。

また、英語専科教員は、一人で授業をするのではなく、英語専科教員とともに学級担任や外国人指導講師も一緒になり指導を行っており、英語の指導は、英語専科教員だけに任せておけばよいと、いう意識ではなく、学校全体で英語の指導に取り組もうという意識付けのためにも、池田市では、英語専科教員を核として、すべての教員が英語の指導力向上や授業力向上に取り組むを目指している。

また、平成14年度から行っている。{教員海外派遣研修}については、平成30年度までに延34名の教員をオーストラリア、及びローンセストン市における2週間の研修を通じて、海外の教育事情を学ぶとともに現地学校での授業実践を通じて国際感覚を磨き池田市の英語教育に取り組んでいる。

本市においても、小学校低学年から英語に親しむ環境が必要であると思う。

会派視察議員所見

議員名「谷川 登」

受講日 令和元年年1月17日 {金曜日}
研修先 ハ尾市
研修内容 議会広報 {高校生プロジェクト} について

八尾市議会は、平成30年度より主権者教育の一環として、学生の皆様に議会への関心を持ってもらい議会を身近に感じてもらうため学生の意見を議会だよりに反映させてよりよい雑面としていくことを目的に市議会及び高校生と、コラボしたさまざまな取り組みを行っている。

取り組み内容として、市議会だよりの表紙、題字を高校生より募集し、美術部や書道部などの作品や活動写真を表紙として採用、また高校生に議会や議員に対するアンケートを行い、その疑問に対して議員が回答する特集記事を市議会だよりに掲載した。

レイアウト等に関しても高校生からの意見を参考にし、できるだけ文字数を減らし、画像やイラストを活用しみやすいものになっている。また、取材の際に高校生らに議会や議員に関する説明を行うことや市域の生徒会に議場の開放をし、議員との意見交換の機会を持つなど、開かれた議会を実践するとともに、若い世代に議会に関心を持っていただけるようにしている。

これらの内容が評価され、この取り組みが第13回マニフェスト大賞シティズンシップ推進賞優秀賞にノミネートされた。

本市においても、議会だよりは市民と議会を結びつけるパイプとして市民の皆様に広報誌を見てもらうことが大事と思う。